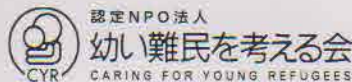




バンキアン地区保育所 © 小林正典



2008年12月 NO. 88

Children, Our Future

子どもたちの明日

目次

- ② 75,669人の幼児教育環境を変えよう！ - CYRの活動がカンボジア全土へ広がる -
- ④ 給食基金をありがとう！ - 給食の材料を買いに -
- ⑤ おりもの「生徒が上手になると嬉しい！」スーン・ミットさん
- ⑥ 卒園児の「今」 サム・ウドムさん
- ⑦ - 国内活動報告 - 株式会社フェリシモ / 株式会社名鉄インプレス野外民族博物館「トルワールド」
- ⑧ ~連載寄稿~ 「私たちの未来」フォトジャーナリスト 高橋智史さん

ホームページを
リニューアルしました！



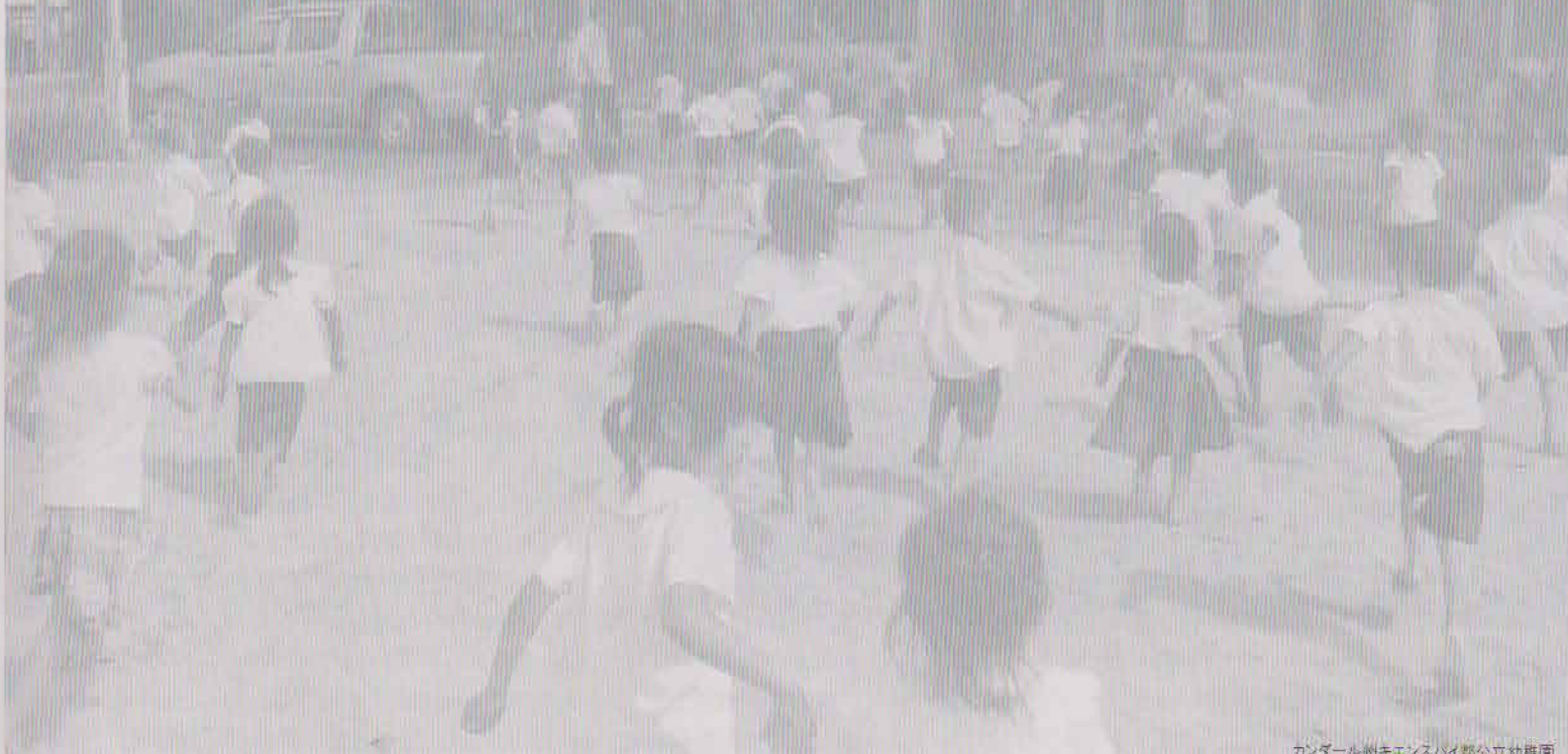
幼い難民を考える会(CYR)は、難民となったカンボジアの子どもたちがけんめいに生きようとする姿に触発され、1980年に組織されました。子どもたちが心身ともに健全に成長し、その親たちが人間らしい生活環境のもとで自立できることが、難民を出さない平和な社会につながることを信じ、復興をめざすカンボジアで活動を続けています。

75,669 人の幼児教育環境を変えよう!

— CYRの活動がカンボジア全土へ広がる —

3歳から5歳は、「やさしさ、かしこさ、つよさ」など、人間の基礎がつくられる大事な時期。

幼児期は一瞬で過ぎてしまいますが、この時こそ、その後を生き抜く力をつけられるように周りのおとなのサポートが必要です。



カンダール州キエンハイ郡公立幼稚園

カンボジア政府と一緒に全国へ

目標があっても
お金が足りない!

カンボジアでは、公立幼稚園に通っている幼児はわずか13%です。(カンボジア教育省2006年度統計)最近、カンボジア政府もこの時期の教育が大切だと考えるようになり、『2015年までに5歳児の75%が教育を受けられるように』という目標を打ち出しました。

しかし、実際の予算はとても限られています。先生たちの月給はわずか30ドル前後。これだけでは生活もままならない上、研修の機会や子どもの教材は全然

足りていません。そこで、長年カンボジアで活動してきたCYRへ、カンボジア政府から支援が求められました。

貴重な文字教材

子どもは、2・3歳頃から文字に興味を持ち始めます。この時期に適切な文字教材と出会えば、どんどん関心を示して吸収していきます。カンボジアには1591ヶ所の公立幼稚園がありますが、それにふさわしい文字教材はほとんどありません。さらに、教材を配布しただけでは先生たちは使い方が分からないため、研修の機会も必要です。

CYRは、カンボジア政府から要請を受けて、全国の公立幼稚園で使用される4種類の教材「詩の本」「なぞなぞの本」「文字表2種類」を印刷し、1年かけて、全国規模で研修と配布を行います。文字表は、CYRが独自に開発したもので、「幼稚園で使いたい」と政府に認められました。

研修&配布の流れ

教育省

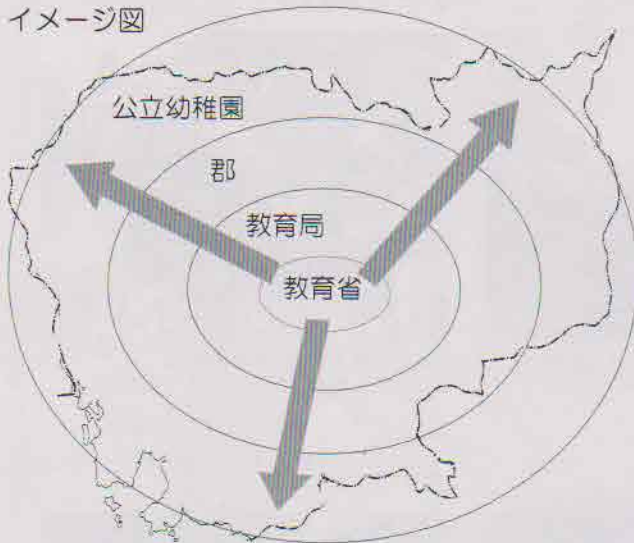
⇒教育局 (24 州)

⇒郡 (185 郡)

⇒公立幼稚園 (1,591 園)

集合研修を通じて、先生たちに教材の目的や使い方を説明しながら全国へ配布。

イメージ図



CYRの経験を、最大限に活かしたい

CYRは、17年間、カンボジアの農村にある地域保育所^(※)を運営してきました。今回、全国規模へ活動を広げることになったのは、1つの地域でコツコツ重ねてきた経験を、ひとりでも多くの子どもたちの環境を変えていくために最大に活かしていきたいと考えたからです。

この活動の対象となるのは、公立幼稚園に通う75,669人の子どもたちと2,882人の先生たち。この大きなうねりの中で、少しでも幼児教育の環境が改善されるようカンボジアの人たちと一緒に全力を尽くします。



上：教育局から郡担当者へ教材の説明をする。©小林正典

下：公立幼稚園の先生がクラスで教材を使う

カンボジア幼児教育、4つのカタチ

① 公立幼稚園

ほとんどが公立小学校に併設し、カンボジア政府管轄のもと、幼稚園教諭・小学校教員が指導している。

② 私立幼稚園

会社、個人、宗教組織などが運営し、政府が認可している。

③ 地域幼稚園・保育所^(※)

公立幼稚園がない地域において、NGOなどが地域の人々と共に運営をしている。

④ 家庭内親教育プログラム

公立幼稚園がない地域において、母親がグループを作り、保健衛生・栄養・子どもの発達促進の方法などを学習しながら、家庭内で自分たちの子どもへ教育を行っている。

参考：

「カンボジアにおける幼児教育に関する調査報告書」

お茶の水女子大学グローバルCOEプログラム

「格差センシティブな人間発達科学の創世」2008年2月発行



※この活動は、国際ボランティア貯金ほかの助成を受けて実施しています。

「給食募金」をありがとう!

給食の材料を買いに



私たちが、買い出しに行きます!

CYRは、カンボジアの子どもたちが、おなかいっぱい食べられるよう、約1,000人を対象に給食を提供しています。子どもたちが毎日楽しみにしている給食の材料は、どこで調達しているのでしょうか?買い出しに同行しました。

① 8:50 保育所を出発



ロモト(乗り合いバス)で市場へ

② 9:00 市場に到着



どンドン奥へ。この方が安く新鮮な食材が入る

③ 9:10 野菜売場へ



きゅうりを購入。良く品定めをして

④ 9:15 肉屋さんへ



牛肉をチェック。値下げ交渉もすっかり

⑤ 9:20 調味料売り場へ



値段が高いため、小分けされたものを購入

⑥ 9:35 ただいま



献立は、きゅうりと牛肉のスープかけごはん



「食べること」は「楽しいこと」

現地NGOケマラ(CYRのパートナー)
職員 トラーさん

子どもたちは、給食のおかげで元気になってきました。保育所ができる前は、親が働いている間に一人でごはん食べていた子が多かったんです。だから、食欲もありませんでした。ここでは、みんなと一緒にお腹いっぱい食べることができます。「食べること」は「楽しいこと」という風に、意識が変わってきました。久しぶりに保育所へ行った時、子どもたちがふっくらしていて私も驚きました。



© 小林正典

おりもの

「生徒が上手になると嬉しい」

CYRは、貧困に苦しむ農村地域の女性たちの生活向上と伝統文化の継承を目指し、カンボジアのタケオ州で織物の技術指導に取り組んでいます。研修センターで技術トレーナーとして指導しているのはスーン・ミットさん。人に教えながら、自分でも新しいデザインに挑戦しています。



スーン・ミットさん(35歳)
織物研修センター技術指導者

「技術は妻から学びました」

ミットさんは、中学2年生で中退。その後、タケオ州の学校でお寺の壁画の描き方を学びました。そして22歳で結婚。難しいと言われるカンボジア伝統織物の技術をどうやって習得したのかを聞いてみると、「妻が織物をしているため、結婚を機に技術を全て妻から習いました。収入を得たかったし、織物は家で仕事ができるのが魅力的だったから。」CYRが織物研修センターを開いたのは2003年。センターの近所に住んでいたおばあさんから技術トレーナー募集の情報を聞いて、応募してきました。

教えるやりがい

人に教えるのが大好きなミットさん。研修センターでは、1年間のカズリ絣織りコースを設定し、10人の生徒が泊ま

りにみで技術を学んでいます。「生徒たちが上手になってくると嬉しいです。一番大変なのは、入学して間もない時期。シルクの糸が細くて柔らかいので、切れたり絡まったりすることがあって大変です。」と教える苦勞を語ります。



テキストを使って織り模様を指導。©小林正典

大作にチャレンジ中!

ミットさんは、得意な絵を活かして自ら新しいデザインの製作にも挑戦しています。現在、取り組んでいるのは、ニョウカイタクハシ乳海攪拌(ヒンドゥー教における天地創造神話)。「模様が複雑なため、とても時間がかかります。もしかすると1年がかりになるかもしれません。他にはない新しいデザインを作りたいと思っています。仕上がった作品が売れたら嬉しいですね。」と今後の想いを話してくれました。

今ではカンボジアの伝統文化を受け継ぐ貴重な存在となっています。

●ミットさん、NHKニュースに登場●

2008年7月31日、NHK おはよう日本「ワールドレポート」で、研修の様子とミットさんの作品が紹介されました。



卒園児の「今」

CYRがカンボジアで保育所を開いてから17年。第一期卒園児は20歳を超えるようになりました。2002年、2004年に引き続き、3回目の卒園児調査を行いました。前回と比べて、中学就学率は1.4倍に、高校は5倍以上に増え、地域での教育に対する意識の変化が伺えます。

今回は、大きなニュースがありました。地方の高校就学率がわずか6.1%の中、大学に進学した卒園児がいたのです。貧困を抱え、高等教育まで受けるのがとても厳しい状況に置かれながら必死で勉強に励んでいる卒園児を、連載で紹介します。



「卒業するまでがんばりたい。
そして家族の収入を支えたい。」

■ 今の暮らしは？

家を出て、弟・妹と一緒にプノンペンにアパートを借りて、3人で住んでいます。

■ 家族の職業と収入は？

父と母は、農業をしたり調味料を売ったりしています。僕と弟、妹の3人分の学費は、\$1000 / 年間 + 生活費\$500 / 月（家賃\$90 / 月）。両親の他、働いている3人の兄と叔父・叔母が、みんなでサポートしてくれています。

■ 大学に入学した理由は？

知識を得たいと思ったからです。そして良い仕事に就いて、生活レベルを向上させたい。「経営」を学んで、将来は自分で貿易のビジネスをしたいと思っています。大学に行きたいと言った時、家族は「みんなでサポートするよ」と答えてくれました。学費をサポートしてくれている兄たちには本当に感謝しています。だから、どんなことがあっても卒業するまでがんばりたい。そして、今度は僕が家族の生活を支えたいです。もしもっと豊かになったら、故郷の村の子どもたちも助けたいと思っています。

サム・ウドムさん (22)

1992年プレイトウ保育所卒園

家族と仕事

父 農業
母 調味料売り
兄 (30) 造花売り
兄 (29) 運輸会社勤務
兄 (28) 留学準備中
兄 (25) 麺売り
本人 経営大学4年
弟 (20) メコンカンボジア大学1年
妹 (18) 法律大学1年
妹 (16) 高校生

■ 幼稚園の思い出

スープかけご飯の給食を食べたり、人形で遊んだり、昼寝の後に散歩したことが楽しかったです。



インタビューを受けるウドムさんきょうだい



自室で勉強する

国内活動

- ありがとうございます -

CYR カンボジアの活動は、さまざまな日本での協力を支えられています。

企業

「世界中の子どもたちが
ハッピーになれますように。」

株式会社フェリシモ 経営企画部
コーポレートスタイルデザイングループ
課長代理 上野 友紀 さん

フェリシモは、「ともにしあわせになるしあわせ」をコンセプトに、全国約170万世帯の生活者に向けて、『kraso (クラソ)』『ecolor (エコラ)』などカタログやウェブサイトによるダイレクトマーケティング事業を展開。お客さまとともに取り組む社会貢献として、社会活動を支援する基金付き商品も多数企画、販売しています。2004年からスタートしたmama.f スマイリー基金は、子どもを持つ人気パイヤーmama.fが、わが子と同じように「世界中すべての子どもたちが健康で楽しい毎日が過ごせるように」という思いを込めて、スマイリーちゃんというキャラクターを



給食の時間 © 小林正典

付けた商品を販売、価格の一部を基金として、子どもたちの支援に役立てるものです。これまでさまざまなNGOに寄付してきましたが、CYRの活動に共感し、2007年より2度にわたり、カンボジアの給食事業を応援させていただきました。

NGOと企業、それぞれの専門性を生かして、今後ともにしあわせな未来づくりに貢献できる取り組みができればと思います。



企業

リトルワールド開館25周年社会貢献事業
カンボジアサーカス～子どもたちの未来～

支援活動写真展「カンボジアの子どもたち」

株式会社名鉄インプレス
野外民族博物館 リトルワールド
広報・イベント担当 角田 茂也 さん

愛知県犬山市で、世界の民族と文化を紹介する弊館は、世界の衣・食・住を遊びながら学ぶ体験型の博物館です。開館25周年を迎える記念すべき今年は、カンボジアで唯一のサーカス団「ファー・ポンルー・セルバク」から、6名のサーカスアーティストと4名のミュージシャンを招聘し、生演奏とドラマ仕立ての演出により、カンボジアの若者達の様子が生き生きと再現されました。

またCYRの協力を得て、小林正典氏の写真展を開催して教育支援の募金を行った他、遠足に来た学校が公



サーカス

写真展会場

開授業で「みんなで布チョッキン」に挑戦するなど、カンボジアの現状を多面的に支援することができました。

カンボジアの子どもたちは、私達の生活環境より恵まれていないことも多いですが、可愛らしい笑顔の写真を見たり、アーティストと民族舞踊を体験してふれあったりする中で、私達より自国の未来を憂う志は強いのではないのかと感じます。

明るい未来を夢見る“同志”の存在を、遊びを通してたくさんの方々に知って頂きたいと思います。



夜通しのゴミ拾いを終えて家に帰るティアさん。

「私たちの未来」

フォトジャーナリスト 高橋 智史 さん

ゴミを満載したゴミ収集車が次から次へとやってくる。換金できるゴミをいち早く見つけようと人々は危険を顧みずゴミ収集車のまわりに集まってくる。30年以上も前からあり、プノンペン市内のすべてのゴミが分別されることなく棄てられ「貧困」の代名詞のように語られてきたそのゴミ集積場が、来年の1月に閉鎖になる予定だ。新たなゴミ集積場の建設は別の土地で着々と進んでおり、ゴミ集積場建設を示す大きな看板が立てられ、その

奥では数十台のショベルカーがゴミを埋めるための巨大な穴を掘り続けている。以前とは違い、管理の行き届いたゴミ集積場になる予定だ。しかし、今までのように人々がゴミ拾いをするにはできない見通しだ。現在のゴミ集積場閉鎖後、ゴミ拾いで生計をたててきた人々はどうなるのだろうか。

「20ドルの家賃を払わなくてはならず、ゴミ拾いをしています」。そう話してくれたのはクン・ティアさん(12)。ティアさんはゴミ集積場が目の前の、ゴミ拾いで生活をしている人々が暮らしている長屋の一部屋に家族6人で暮らしている。5人兄妹の次女として家族の生活を兄妹と一緒にゴミ拾いで支えている。母親はポル・ポト政権時代に足に大怪我をし、歩くこともままならず今は働くことができない。父親は数年前に家を離れ他の女性と結婚し、今はその女性と暮らしている。「勉強がしたいけど、家賃の支払いが近いので毎日ゴミ拾いをしなくてははいけません。昨日は夜中もゴミ拾いをしていました」とティアさんの表情は憔悴していた。ティアさんは数か月前まで週の前半をNGOで勉強をする機会を得ていたが、家賃の支払いが難しい時には学校に長期間行くことができず、その結果NGOのリストから名前が削除され、学校に行くことができなくなっている状況だった。母親は「生活が本当に苦しい。明後日には家賃を支払わなくてはいけません。子どもを学校に行かせることができず私の心は罪悪感でいっぱいです」と話し、涙を流した。家の中には夫が家族の元にしたころの昔の写真が壁一面に張られていた。「来年の1月にゴミ山が閉鎖されるという話はもちろん知っています。新しいゴミ集積場での雇用のお話もまったくありません。今は未来を考えたくはありません」。そう話す母親のすぐ横で、ティアさんの瞳はずっと遠くを見つめていた。

※ごみ山の移転は来年の1月から6月に変更される見通し。



●高橋智史さん、プロフィール●

フォトジャーナリスト。1981年10月6日生まれ。秋田県秋田市出身。高校卒業後、日本外国語専門学校国際ボランティア学科入学。その後、日大芸術学部写真学科で写真を学んだ。カンボジアを主に東ティモール、アフガニスタン、スマトラ沖地震津波被災地などのアジアの問題、人々の営み取材し雑誌、写真展などを通じて作品を発表。昨春、カンボジアのプノンペンに移り住み、取材活動を続けている。秋田魁新報社「素顔のカンボジア」でフォト&ストーリーを連載中。

CYRの活動をご支援ください

年会費 正会員 ¥10,000 学生会員 ¥3,000 団体会員 ¥30,000

下記の口座にご送金ください。

郵便局 No.00110-8-36227 (特活) 幼い難民を考える会 銀行 三菱東京UFJ銀行六本木支店 (普) No.1351747
特定非営利活動法人 幼い難民を考える会

※CYRは認定NPO法人です。5,000円を超えるご寄付は寄付金控除の対象となります。



〒106-0046 東京都港区元麻布3-2-20 丸統麻布ビル 2F
TEL: 03-3796-6377 FAX: 03-3796-6399
Email: info@cyr.or.jp
URL: http://www.cyr.or.jp ※ホームページをリニューアルしました

子どもたちの明日 88号

◆発行日: 2008年12月5日
◆発行人: 深水正勝